

令和元年 9 月 2 日

保護者 様

富岡市立高瀬小学校
校長 富岡 紀夫

令和元年度 第 1 回学校評価について

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、夏季休業前に実施した第 1 回学校評価アンケートでは、御多用中にもかかわらず、御協力くださり、ありがとうございました。このたび、集計結果と考察がまとまりましたので、お知らせいたします。各家庭で今後の家庭教育の参考にしていただくとともに、本校の教育活動に対し、より一層の御支援・御協力を賜りますようお願いいたします。

1 確かな学力の向上

(1) 基礎・基本の徹底

目標値を達成しています。高瀬小学校では、「高瀬小学習スタンダード」という学習過程に沿って、学んだことを手がかりに考え、説明し合う活動を充実させ、学びの質を高める授業づくりを学校全体で行っています。ただ、昨年度に比べ 8 ポイントのマイナスという結果から、教科や学年によって取組状況が異なることも分かりました。全ての教科、全ての学年で「高瀬小学習スタンダード」の徹底、個別指導について、充実を図っていきます。

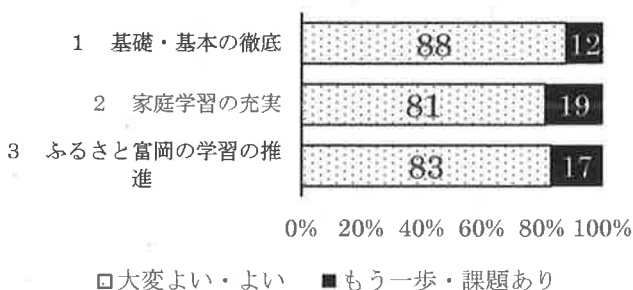
(2) 家庭学習の充実

目標値に対して 8 ポイント不足しています。昨年度からは 1 ポイント上昇していますが、引き続き個に応じた課題の提供と授業と関連させた課題の提供を継続していきます。家庭でも「家庭学習の手引き」を元に実態に合った学習ができるよう御協力をお願いいたします。

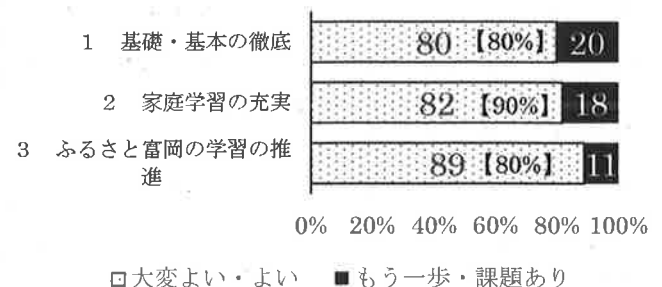
(3) ふるさと富岡の学習の推進

昨年度に比べ 6 ポイント上昇しています。昨年度から実施している高瀬地区地域づくり協議会と連携した行事の取組が浸透してきました。3 年生での養蚕・座繰り体験や古墳見学、6 年生での富岡の地域巡り学習等により、児童が富岡の歴史や史跡に直接触れることで、地域の歴史的価値を学び、愛着をより深めることができてきました。

平成 31 年度



令和元年度 【 】は目標値



Ⅱ 豊かな人間性の育成

(1) 心のこもった挨拶

児童会の生活委員会による挨拶運動や学級における挨拶指導等を継続的に行ってきた成果が表れてきています。特に挨拶ができていると感じている保護者の方が多くいることは、御家庭での挨拶がしっかりできている証しであると思います。

(2) 人権意識の高揚

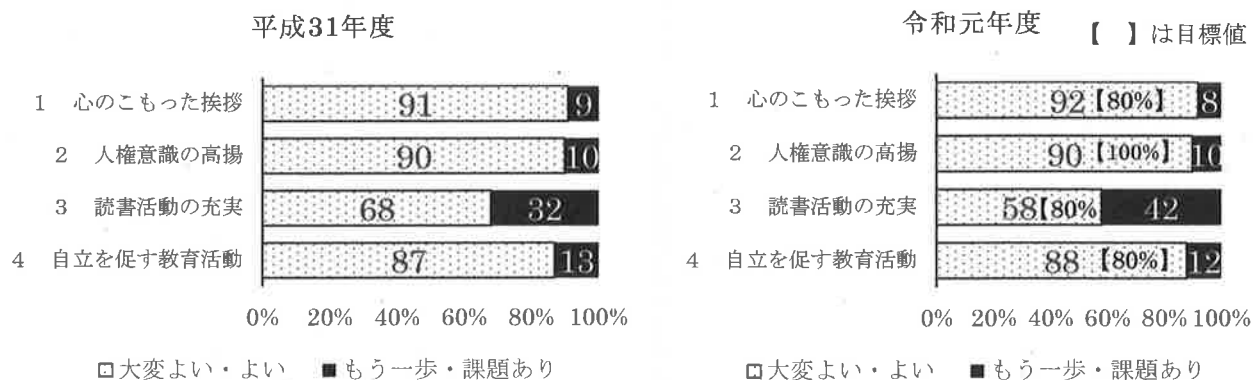
目標値は達成していませんが、90%以上の児童・保護者が「いじめに対して見て見ぬ振りをせず、自分がされていやなことをしない」と回答しています。いじめ根絶には、学校全体の取組はもちろんのこと、愛情をもった家庭での対話が必要不可欠です。今後も道德の授業や人権学習等を通じていじめ根絶に向け働きかけていきます。

(3) 読書活動の充実

目標値が達成できていませんでした。毎月23日を「ノーメディア読書デー」として位置付けていますが、家庭での読書習慣が確立できていない結果が表れています。低学年の読み聞かせ活動の充実と図書室利用の促進を重点に取り組んでいきます。中学年以上では、活字を読み、想像の世界を広げることや巧みな叙述に接し、表現力や語彙力を向上させることで、国語力がアップします。本に親しみ、自ら進んで読書活動を行っていけるよう全校の取組を充実させていきます。

(4) 自立を促す教育活動

道徳の授業や児童集会・学級活動等で進路や将来について考える機会を計画的に設け、「夢ファイル」の様式を見直すなど、子供たちが夢に向かって「具体的に何をするか」について考えさせてきた成果が表れてきています。校訓「礼を正し、場を清め、時を守る」を自ら意識して実践している児童が育ってきています。



Ⅲ 健やかな体の育成

(1) 健康の保持増進

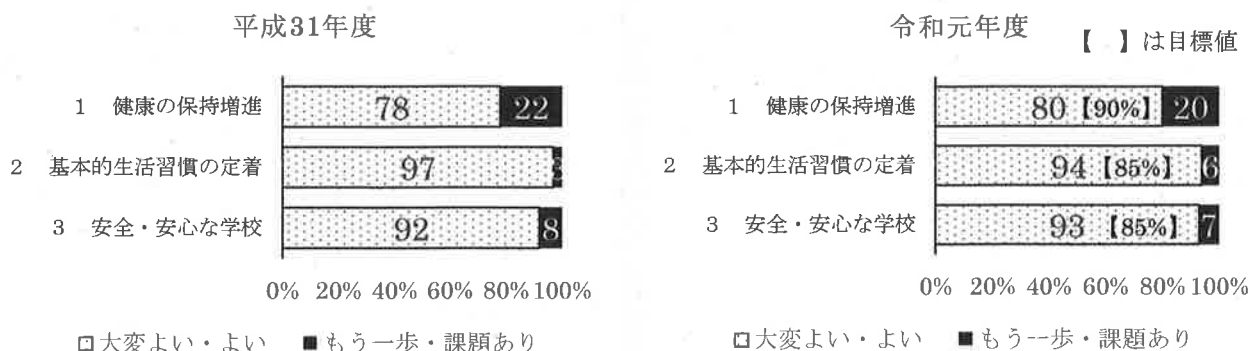
体育集会で「高瀬っ子体操」「サーキットトレーニング」を体育集会で行っています。今年度の体育の授業では「走ること」を重点に取り組んでいます。健康の保持増進は、自ら環境や状況を考えて判断していく力が大切です。健康づくりの基礎として、毎日歩いて登校し、元気に遊ぶよう指導を継続していきます。

(2) 基本的生活習慣の定着

「早寝・早起き・朝ご飯」は、基本的生活習慣の第一歩です。御家庭の御協力を得て、昨年同様、およそ9割の保護者・児童とも「できている」と感じています。

(3) 安心・安全な学校

朝の交通指導や放課後の安全パトロールなど、地域・保護者ボランティアやスクールガードリーダーの力を借りた児童の登下校時の安全確保ができています。



< 2学期の具体的な手立て >

次ページ以降の「学校評価の羅針盤」のように、1学期の評価を集約し、その結果を基に今後の改善点を明らかにし、具体的な手立てを考えました。地域・家庭の御協力をいただきながら、指導していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

令和元年度 高瀬小学校 学校評価羅針盤

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方策	児童	保護者	教職員	自己評価	改善策
I 確かな学力の向上	①主体的対話的で深い学び	自ら考え、表現できる児童が育っていますか。	自分で考えたり、表現したりしていると応える児童が80%以上	84		75	A	○果で出されている「評価資料集」の活用場面を考えて、繰り返し学習し定着させる指導を行う。
	②基礎・基本の徹底	教科等の基礎・基本が、児童に確実に身に付いていますか。	テスト等で正答率8割以上の児童が80%以上	92	80	65	B	○「コツコツ学習のすすめ」を活用し、家庭学習と授業を結びつけた指導を行う。
	③きめ細かな指導の改善・充実	児童の実態に応じた複数の手立てによる指導の工夫がなされていますか。	自分に合った方法で学習ができていると回答する児童が85%以上	87		96	A	○今年度の方策をもとに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を行う。
	④家庭学習の充実	家庭で自主的に学習する態度が、児童に身に付いていますか。	毎日家庭学習に取り組んでいる児童が90%以上	83	82	80	B	○小中連携を図った「家庭学習」の進め方について協議し、自主的な家庭学習の定着を促す。
	⑤校内研修の充実	各教科で「高瀬小授業スタンダード」を徹底し、考え表現する学習活動の充実に努めましたか。	各教科で問のある「めあて」と「まとめ」の整合性を意識した授業ができていると回答する教師が90%以上	79		91	A	○各教科で「高瀬小スタンダード」を徹底し、さらなる学力向上を目指す。
	⑥キャリア教育の充実	各教科の学習を通して、学ぶ意義や学び方を理解させ、学習意欲を高めるとともに、将来自立する力を高めていますか。	校訓をキャリア教育と結び付け、学校教育全体を通して指導できたと回答する教師が90%以上	93		86	B	○日常の指導がキャリア教育につながっていることを教職員間でも共通理解を図る。
	⑦ふるさと富岡の学習の推進	富岡製糸場や地域の特徴を探究する活動を取り入れて、主体的な学習を促していますか。	「高瀬地区や富岡市について知っていることが増えた」と回答する児童が80%以上	89		75	A	○ふるさと学習の年間指導計画を新教育課程との関連を図りながら見直し、高瀬の地域を見据えより実践的な活動となるような、体験活動の充実に努める。

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方策	児童	保護者	教職員	自己評価	改善策	
Ⅱ 豊かな人間性の育成	⑧道徳教育の充実	道徳教育推進教師を中心に、ローテーション道徳のよさを生かし、考え、議論する道徳指導の展開を工夫していますか。	ローテーション道徳のよさを生かし、考え、議論する道徳を行っている教師が90%以上	・別葉や「生きる力」「ぐんまの子どものためのルールブック50」を計画的に活用し、全教育活動を通し、生活に生かすことを意識した道徳教育を行う。 ・ローテーション道徳のよさを生かし、教材研究の質を高め、考え、議論する道徳の指導を行う。	91		83	B	○ローテーション道徳の継続及び、職員の研修を積み授業の質の向上に努める。
	⑨心のこもった挨拶	いつでも、どこでも、誰にでも元気に心のこもった挨拶をする児童が育っていますか。	元気に心のこもった挨拶を進んでいると回答する児童が80%以上 教師が90%以上	・校訓「礼を正し、場を清め、時を守る」の意義や価値を理解させる指導を繰り返し行う。 ・生活委員会を中心に挨拶運動を展開し、啓発や表彰等を行う。	87	92	83	B	○上級生が模範を示したり、職員からも積極的に声を掛けたりしながら、学級での挨拶の習慣化を目指す。
	⑩人権意識の高揚	いじめを見て見ぬ振りをせず、自分がされて嫌なことはしない児童が育っていますか。	いじめを見て見ぬ振りをせず、自分がされて嫌なことはしないと回答する児童が100%	・児童会主体でいじめ根絶の啓発活動を行う。 ・道徳の授業で、人権、思いやりなどについて重点的に取り上げる。 ・人権学習で、いじめを許さない心情や態度を養う。 ・学活、朝や帰りの会などで、自分の行動を振り返る時間を充実させる。	92	90	87	B	○なかよしアンケートの実施や職員間の密な情報交換等に努め、全校児童がいじめ防止に対する意識を高められるようにする。
		教師は、常に人権を意識して行動し、自身の人権感覚を磨いていますか。	常に人権を意識して行動したと回答する教師が100%	・人権学習を計画的、重点的にを行い、教師、児童、保護者の人権感覚を磨く。 ・人権感覚チェックリストを活用する。			91	B	○人権感覚チェックリストの活用を継続し、児童に意識をもたせる機会を積極的に設ける。
	⑪積極的な生徒指導の充実	教師は、児童一人一人の居場所のある学級づくりを心がけていますか。	自由に意見が出し合える授業づくり、学級づくりに努力したと回答する教師が100%	・「かがや・く」を目指す児童像の評価指標とし、道徳教育や「かがやきタイム」と連携した心の教育と学級づくりを行う。 ・なかよしアンケートを毎月実施し、早期集計、即時対応を実践する。 ・常に生徒指導・保護者対応の鉄則に基づき、対応する。	91		95	B	○なかよしアンケートの実施や職員間の密な情報交換等を、今後も更に継続していく。
	⑫きめ細かい児童理解	学校は、学習面、生活面で配慮の必要な児童について、組織的に理解し、対応していますか。	配慮の必要な児童とその対応について理解していると回答する教師が100%	・学年主任等連絡会議を核として、配慮が必要な児童に対する共通理解と、適切な共通行動を行う。 ・スクールカウンセラー、富岡市教育相談研修センター、富岡市発達支援教室をはじめ、関係諸機関とも連携し、組織的に対応する。			96	B	○学年主任等会議で情報を共有し、職員全体での支援体制づくりを継続していく。
	⑬読書活動の充実	学校は、図書室環境の充実や、保護者による読み聞かせ活動を継続していますか。	図書館図書の利用数、読み聞かせボランティア数が前年度より多い。	・読書の機会が増えるよう、スタンプラリーの活用や図書委員会の活動の充実を行う。 ・教科指導で計画的に学校図書を利用したり、学級指導で望ましい読書習慣について指導したりする。 ・高学年は、ローテーションで、火曜日の朝読書の時間に図書室の本の貸し出しをする。 ・読み聞かせボランティアの活動の様子をWebページや図書だよりで紹介することで、学校の読書活動を地域に広げる。	79		67	B	○前年度同様に取組を継続していく。
		学校は、児童が家庭でも読書をするよう指導を工夫していますか。	家でも読書をしていると回答する児童が80%以上	・朝読書の方法や本の選定を見直し、より主体的に読書に取り組めるようにする。 ・Webページや図書だより等で、「ノーマディア読書デー」の家庭への啓発を行う。	68	58	80	B	○今後も読書の意義等の理解を促し、読書習慣の定着に向けた取組を継続していく。
	⑭自立を促す教育活動	夢や希望をもち、将来社会的に自立できる児童が育っていますか。	校訓「礼を正し、場を清め、時を守る」を実践していると回答する児童が80%以上	・校訓「礼を正し、場を清め、時を守る」を行動目標とし、常に守れるように指導する。 ・児童集会や学級活動、道徳の授業等で、進路や将来について考える機会を設ける。 ・キャリア教育全体計画や年間指導計画を活用し、児童が将来社会的に自立できる最適環境になるように、意図的・計画的な指導を行う。	85	88	87	A	○今後も校訓を意識させる指導を継続し、自らの生き方を考えさせていく。
	⑮自問教育活動の充実	かがやきタイムの意義を理解している児童が育っていますか。	かがやきタイムを実践し、5つの心を磨いていると回答する児童が85%以上	・「がまん、気付き、思いやり、感謝、正直」の5つの心の重要性和、その結果として「無言」で活動するというを、自問集会をはじめ、朝・帰りの会、学級指導などで、繰り返し児童に伝えるようにする。 ・自問教育活動の職員研修を行う。	87		77	B	○学年の実態に応じ、担任を中心に重点事項についての指導を継続していく。
Ⅲ 健やかな体の育成	⑯健康の保持増進	休み時間など元気づけ外で遊び、自分の健康を自分で管理できる児童が育っていますか。	健康づくりのために、毎日歩いて登校し、休み時間や体育の時間に進んで運動していると答える児童が90%以上	・スポーツや手伝いなど、体を動かすことを様々な機会を捉えて奨励する。 ・20分休み・屋休みの外遊びを推奨し、教員も共に遊ぶこと進んで運動する児童を増やす。 ・環境と健康状態を考慮して、外に出るか出ないか自分で判断できるように指導をしていく。 ・雨天時は、室内や体育の時間にも高瀬子体操等に取り組む。	90	80		B	○外で遊ぶ機会を増やす。 ○天候により室内で過ごすことになっていてもできる運動を進める。
	⑰基本的な生活習慣の定着	「早寝・早起き・朝ご飯」を実践し、睡眠や食事を大切にしている児童が育っていますか。	「早寝・早起き・朝ご飯」を実践している児童が85%以上	・生活指導・食育指導を継続・充実させる。 ・「ぐんま子どものためのルールブック50」を教育活動全体を通して活用し、基本的な生活習慣が身に付くようにする。	89	94		A	○学活や家庭科で朝食の大切さについて考える場を設ける。
	⑱安全・安心な学校	安全マップを活用して、自分で自分の安全を守れる児童が育っていますか。	通学路を中心に危険な場所が分かり、注意していると回答する児童が85%以上	・交通安全や生活安全について、学級活動や朝・帰りの会で継続的に指導する。 ・班旗の使い方や登校マナーの良い班を紹介する。 ・登下校の安全意識が高まるよう、年4回、通学班会議をもち、登校の仕方について振り返りをする。	95	93		A	○交通安全や生活安全について考えさせる指導を継続していく。
		学校は、教師の危機管理意識を高め、安心して生活できる学校づくりを進めていますか。	月1回の安全点検をはじめとして、常に安全に配慮していると回答する教師が90%以上	・「廊下を走る」等、事故につながる行為については、常時、全職員で指導する。 ・危険を予測し安全な行動をとれるよう、児童に考えさせる指導を行う。	85		96	A	○事故につながる行為については、学級指導で危険性を具体的な場面で捉えさせたり、全職員で指導したりする。
	⑲楽しい給食	給食を通して、食の大切さを理解する児童が育っていますか。	給食をバランスよく残さず食べようと努力していると回答する児童が90%以上	・給食指導をはじめ、学級指導(低・中学年)、家庭科(高学年)で、望ましい食習慣について、計画的・継続的に指導する。 ・望ましい食習慣について、様々な機会を捉えて保護者を啓発する。 ・一日の食事・運動・睡眠を記録する「すくすくペロリンカード」を用いて、児童の生活習慣を把握し、指導に生かす。 ・苦手な食材もバランスよく食べることと呼びかけ、食べようと努力する態度を養う。	88		87	B	○食事、運動、睡眠のバランスをとることが健康な生活につながることを、今後も意識させていく。